

第2回横浜市少年自然の家指定管理者選定評価委員会 議事録	
開催日時	平成24年9月4日(火) 午後12時50分から午後2時20分
開催場所	横浜市少年自然の家赤城林間学園ティーチャーズルーム
出席者	<p><b>選定評価委員</b></p> <p>石井 一也委員、犬塚 文雄委員長、為崎 緑委員、松永 昌幸委員、渡辺 祐子委員(五十音順)</p> <p><b>指定管理者(横浜市体育協会)</b></p> <p>施設経営部長、赤城林間学園長ほか4名</p> <p>教育委員会事務局3人</p>
傍聴者	なし
議題	<p>1 「評価シート」に基づくヒアリング</p> <p>2 次回の委員会の予定について</p>
審議内容	<p>議題1 (主な質問と回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の当直は何人か。 →宿直者は一人だが、災害時や病人・けが人の発生時には引率の先生にも協力をお願いしている。</li> <li>・東日本大震災後、災害時の対応を見直した部分は。 →震災後、より細かい部分での指導を加えた。また、転倒や落下の危険のあるものは、震災後に全て状況確認をした。</li> <li>・震災があった場合の対応はどう考えているのか。 →子どもの保護者との連絡は、基本的には引率の学校で対応する。長期滞在の場合、学園で常備している食糧などもあり対応する。</li> <li>・学びの場として「規則を守ること」と「自然の中で自由を満喫すること」との間でどうバランスをとっているか。 →施設の設定趣旨が、「自然環境の中で、集団生活を通して規則正しい生活をし、規律や情緒を養うこと」なので、学園での生活時間がベースとなる。その中で学校独自のプログラムに学園として最大限の援助をするが、中にはここに宿泊するだけの学校もある。あくまでも環境を活かしたプログラムということが前提なので、事前の下見の打合せや代表者会議においては環境を活かすアドバイスをしている。</li> <li>・稼働率を上げるためと、この施設本来の役割を果たすこととを両立するために、実施していることは。 →自主的に主催している事業で、野外炊事、周辺散策での自然観察、自然の物を使った工作などを取り入れている。また、学校独自のプログラムと学園が提供するプログラムを、学校の先生と相談しながら一緒に決</li> </ul>

めている。

- ここ 5～6 年の利用状況の傾向は。
  - 微増している。
- 震災の影響もあったと思うが、今年の利用状況はどうか。
  - 前年より回復し、前々年より少し増える見込み。
- アンケートに「夏は暑い」、「冬は寒い」という意見があったが。
  - そのような意見は、ここ 2～3 年増えている。
- アンケートには虫に関する苦情も多いようだが、どうか。
  - 感覚的なものもあると思うが、横浜から来た人たちには虫が多いと感じるかもしれない。網戸を設置し、壊れた部分は補修もしている。
- アンケートに「床が滑りやすい、フローリングが滑りやすい」とあるが。
  - 学校利用では上履きなので滑りやすいことはないと思うが、靴下だと滑りやすいこともあるので、上履きを履いてもらうようにしている。
- 施設が広いので、子どもたちが迷わないか。
  - 入園式の時、自分たちの部屋に入った際に自分たちのいる位置をまず確認するように指導している。また学校利用では、子どもたちが持っているしおりに見取り図が印刷されている。学校によっては、施設に到着してから、施設の案内をしている学校もある。
- 利用率の向上を図るため、学校以外への PR が必要と思うが、戦略的にはどのような取り組みを行っているか。
  - 体育協会という組織を十分に活用して、各加盟団体に対して PR している。昭和村と長年の付き合いの中で施設利用のお願いをすると、割引や優先的な利用等の便宜を図っていただいている。また、学園の企画で 3 泊 4 日のキャンプ等も試みている。
- この企画を知らない横浜市民も多く、市の広報だけでは限度があるのではないか。
  - 横浜市の青少年指導委員、体育指導員の組織と連携させてもらっている。
- 利用率の向上に関して家族利用等も考えられるが、1 室に何人ぐらい入らないと採算がとれないのか。
  - 1 室というよりも、館内の部屋をどのように使うかによる。
- 家族利用を増やしても採算が向上する結果にはならないのか。
  - 同じ日に、同時に何家族か入っていれば問題ない。
- 20 人部屋ということを厭わないで入ってくれる団体、例えば大学のサークルなどまで対象層を広げてはどうか。
  - 23 年度の需要促進プランとして、大学のサークル向けの勧誘チラシ

を横浜市内の大学に置かせてもらう試みを行った。大学サークルの長期滞在は魅力がある。

- 車で来た場合、駐車場は何台分ぐらいあるか。  
→周辺も使用すれば、30台は止められる。
- 施設も老朽化してくると思うが、日常で問題と思われるところはあるか。  
→時代の流れもあるが、以前と比較して不審者などに対するセキュリティ面で心配な面がある。また、暖房がボイラーによる全館暖房のため、部屋を2室ぐらいしか使っていない場合は無駄がでる。家族利用にはセパレート暖房が課題。
- ご意見箱の設置場所及び利用状況はどうか。  
→事務所前の談話コーナーに設置している。利用状況は年に10件程度。
- 利用した方の意見ではなく、これから来てもらうために、「こういうのがあったら行きたい」など要望を訊くアンケートはとったことは？  
→ない。ニーズを把握するマーケティングが弱いのが課題。
- 最近の傾向として、保護者の要望が高度化してないか。  
→非日常的な場所で自然体験をしてもらうのが趣旨だが、日常的な要求が増えていると思う。
- 第2期の指定管理期間に入ってから、更に工夫したことは？  
→大学にチラシをまくことでPRの幅を広げた。また、従来年末年始は休園していたところを、家族向けに特別料理や付帯サービスをつけて開園したところ、去年は7組ぐらいがその期間中に利用した。
- 道の駅で使用できる利用券は実際どれくらい配布したか。  
→自主事業の「ゆるりずむ」参加者に配布した。
- 指導マニュアルは子どもたちの指導にあたってとても重要だと思うが、皆で心掛けていることはあるか。  
→「自分のことは自分でやる」という共同生活上の決まりを守っている。
- 職員体制はどうなっているか。  
→園長、副園長、保健担当者、給食担当者、嘱託が2名、年間を通じての週4日アルバイト1名、夏の繁忙期のアルバイトが1名。
- 退職者が出た場合、継続性を保てるように心掛けていることは。  
→基本部分はすべてマニュアル化している。
- 今の職員体制で、手が足りなくなることはないか。  
→学校のプログラムが重なる時など、まれに時間を延長して働いてもらうことはある。
- ボランティアは横浜市から来ているのか  
→主に横浜の野外活動指導者養成講座の修了者に来てもらっている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元からのボランティアはいるか。 →うどん・こんにゃくづくりのプログラムに、講師として参加している。ただし、地元の産業構造もあり、昼間の短時間だけ来られる人はあまりいない。</li> <li>・横浜からのボランティアは、やりがいや達成感を感じているか。 →横浜市の野外活動の普及・振興に寄与するためにこの講座に入り、長期間の研修の後、活動をスタートさせる。活動を通じ自分自身のスキルを磨けるのでやりがいを感じている。</li> <li>・近くで熊が出るとのことだが、この施設への影響は。 →学園の敷地内で目撃されたことはないが、周辺の畑や山林の中では目撃されたり捕獲されたりすることもある。施設に入って来られないよう、フェンスを設置している。</li> <li>・バイキング形式の食事は、どれくらいの割合の学校が希望しているのか。 →原則3食とも全部バイキング。15名以下の団体には、盛り付けの状態を提供している。盛り付けでは好き嫌いにより食べ残しが多かったが、バイキングは自己管理にもつながり廃棄量も減った。</li> <li>・食材について説明しているか。 →学園に来る前に、学校で説明している。また、アレルギーとなりうる食材には、説明の札を付けている。</li> <li>・食材の放射能の心配にはどう対応しているか。 →食材の産地とその計測値を校長先生へ知らせている。</li> <li>・地元との交流に関して、今後考えていることは？ →こちらで赤城を写したフォトコンテストを開催しているので、横浜市民にも参加してもらいたい。</li> </ul> <p>議題2</p> <p>第3回委員会は、南伊豆林間学園で、視察及びヒアリングを行う。開催日は10月2日(火)、開始時間は調整後、事務局から連絡。</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・横浜市少年自然の家赤城林間学園 評価シート</li> </ul>